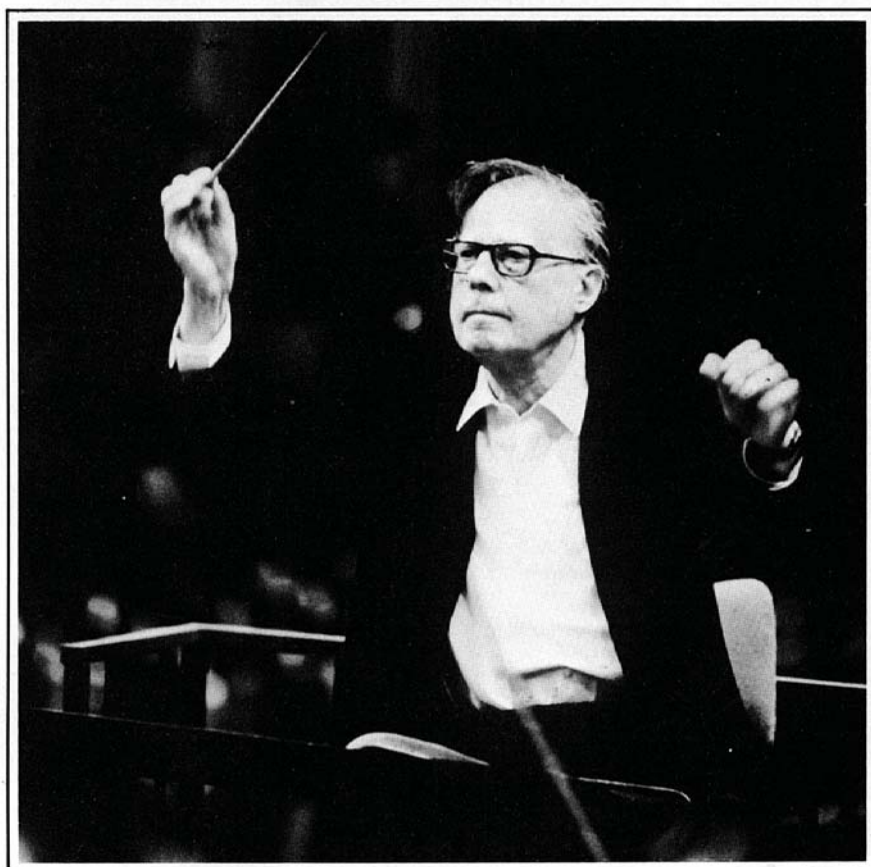




KARL BÖHM SPRICHT ÜBER DIE WIENER PHILHARMONIKER
カール・ベーム、ウィーン・フィルハーモニーを語る

JOHANN STRAUSS (Sohn)
KAISER-WALZER op. 437

WIENER PHILHARMONIKER
KARL BÖHM



ⓈⓉ 33 KI 3005

ベームからのメッセージ

日本の皆様へ

このたびウィーン・フィルハーモニーを率いて日本を訪問し、
世界で最も美しい言葉——音楽という言葉で、
音楽を愛好される皆様、レコード・ファンの皆様と共に
語り合えるのは、私の非常な喜びとするところです。
なぜなら日本こそこの言葉を誰よりも理解してくれる
国だからです。

Karl Böhm



カール・ベーム、ウィーン・フィルハーモニーを語る

訳：渡辺 護

ウィーン・フィルハーモニーの最初の印象は、当時ウィーン宮廷歌劇場であったウィーン国立歌劇場の4階席で得たものです。そのころ私の父はしばしば私達兄弟二人をオペラに連れて行ってくれました。大抵、プレミエ（初日）から10日以内にこうしてオペラを見たものです。まだスレザークが全盛期で、エレアザール（ユダヤの女）や、ラダメス（アイダ）を歌っていました。これは1906年から1910年ぐらいまでの頃で、私もまだ10才のいたずらっ子だったのですが、こうしたオペラの上演を非常に興味をもって見ました。そして、歌い手に対してばかりでなく、管弦楽に対しても批判的な耳を以て聴いたのです。なぜなら、皆さんも私の回想録からご存じのように、はじめから、いつかは指揮者になりたいという希望を持っていたからです。

私は1913年、「パルシファル」をききました。これは「パルシファル」の上演権が開放されてからの最初の上演で、フランツ・シャルクの指揮によるものです。忘れがたきリヒルト・マイヤーがグルネマンツを歌いました。この上演はすばらしくよく稽古が積んでありました。そして、この時に、異質な音響から成り立っているこの作品に於いて、私はこのオーケストラの弦や管の統一性に賛嘆することができました。私は今もよくおぼえています、最後の聖杯の聖堂の場の前の、最後の間奏曲は私に圧倒的な印象をあたえました。死せるティトゥレルへのなげきの音楽です。それから私はこのオーケストラを何回も聴き、どうしてこういう音響の統一性が可能なのか考えてみました。結局、この楽団の音楽家たちが皆、同じ言葉をしゃべるからであるという確信を得たのです。それは単にウィーン語を語るというだけでなく、同じ音楽のことばを話すということです。彼らは同一の源泉、すなわちクラシック（古典派）からやって来たのです。

このオーケストラを一度でもいいから指揮したいという希望ははじめから持っていました、私はそれについて考えて見ることさえ、あえてやらなかったのです。私はグラーツの学習時代を終え、ミュンヘンにやって来ました。そこで私はモーツァルトに対する私の大きな愛を発見し、さらにゲルムシュタットを経て、ハンブルクに来ました。そしてハンブルクでゲネラルムジークディレクターとなつた私は、ウィーンで「トリスタン」を指揮するよう招聘を受けました。この作品は私の少年時代から深く親しみ、私の非常に愛した作品でしたので、ウィーンで指揮しないかという要請をもちろ

ただちに受け入れたのです。それはリヒルト・マイヤーがマルケ王を歌った最後の上演のひとつでしたが、とにかく忘れることのできぬものです。なぜなら練習時間は短かったにもかかわらず、このオーケストラといかに内面的な関わり合いを持つことができるかを感じ取ることができたからです。

この上演のあと、私は、その頃のウィーン国立オペラの劇場長ブルクハウザーから音楽会をも指揮するよう招聘をうけました。この音楽会は1933年4月30日に行われ、私はモーツァルトのハフナー交響曲を以てはじめ、ブルクハウザーの希望に従ってブラームスの第2交響曲を指揮し、最後にベートーヴェンの第5交響曲を演奏しました。巨大なプログラムだったのです。そのほかにも、忘れがたいいくつかの夕べがあります。例えば、私のとくに言いたいのは、ウィーン・フィルがシューベルトを演奏するとき、全く無類であるということです。シューベルトに親しむようになったのは私としては比較的遅いのですが、彼こそはベートーヴェンの直接の先達だということを次第に強く感じるようになりました。

さらに忘れがたい音楽会は、シューベルトの第2交響曲をいわば私が再発見したザルツブルクの音楽会です。これを私はシューベルトの大交響曲（ハ長調）と共に演奏しました。そしてまさにこの時の夏の音楽祭で、ウィーン・フィルハーモニーによって「イドメネオ」を真に体験することができたのです。私は、世界の他のいかなるオーケストラとの共演によってもこのような表現を実現することはできないと思います。単に音楽が清澄であるということであるばかりでなく、ウィーン・フィルの音楽家たちは、いくつのヴィブラートをしなければならぬかを正確に知っているのです。他のオーケストラの場合は、「皆さん、この和音はよくひびかない。少しもヴィブラートをしていませんね」というと、ヴィブラートをやりますが、その結果、甘ったるく、形がくづれるのです。こういうことは、ウィーン・フィルに対しては言う必要がなく、すでに当然のこととして存在しているのです。このことはオーケストラの完全性に大きな役割を演じています。

完全性ということといえば、調律 *Stimmung* の問題が思い出されます。絶対に正しい調律音というものは存在しないのです。周知のようにウィーンの調律はかなり高いのです。ベルリン・フィルはさらに一段と高いかも知れません。弦楽器の人々は音を高くするほど響きがいいと言いますが、これを実条件に容れるわけには行きません。こうしていると、ハ長調が嬰ハ長調になるという不条理な結果となります。今でも思い出しますが、実際、私が「マイスタージンガー」の稽古をしたとき、リヒルト・シュトラウスが私に言いま

た。「非常に結構な演奏だよ、ベーム君。だがなぜマイスター・ジンガー前奏曲を彼らは嬰ハ長調で演奏するのかね」。しかしこの意味での絶対に正確な調律音はないのであって、唯、協定によってのみ、定めることができるのです。つまりお互の話し合いによってきめるより他ありません。ウィーン・フィルのようなオーケストラには強制を以て行うことはできません。

私は生涯を通じて、私の全体的構想の中ではありますが、演奏家にある程度を許すようつとめました。この演奏家は、管であれ弦であれ、ソロを演奏するときに、狭いかこの中に入れられていないという感情を持つことが必要であり、それによって彼は自分から最善をつくし、また彼のハートをその中に入れることができるのです。そしてもちろん私の構想の中ではありますが、きゅうくつに狭められていないと感ずるときは、強制されているときは全く違った感情をもって演奏するのです。

これは私の何度も言ったことですが、今流行になっているような「指揮の教育」というものを私は一度も受けたことがないのです。よく覚えていることですが、グラーツで、突然、「アイーダ」の指揮をしなければならなくなったとき、4分の4拍子の振り方を正しくせず、第2拍を左へでなく、右へ振ったのです。オーケストラは私が3分の4拍子を振るのかと思い、バラバラになってしまいました。こうして私はあとになって、失敗を通じて、してはいけないこと、すべきことを知ることになったのです。しかし私は、かつてハンス・リヒターが私の父にバイロイトで言ったことばを引用したい(父はこの指揮者と親交を結んでいました)。リヒターは、指揮者になるにはどうすればよいかという質問に対して、「わが友よそれは指揮台に立つことだ。そうして指揮できるか、できないかのどちらかしかない。できなければ、決して習うことはできないんだ。」このことばには根本的な真理がひそんでいます。

私がウィーン・フィルハーモニーから、習ったことのひとつに、私が「フィルハーモニック恐怖の瞬間」と呼ぶものがあります。これはこういうことです。あなたはもちろん、ウィーン・フィルを極めて正確に音をそろえて開始するように強制することはできます。また、ある程度まで、終りの和音を正確に一点に合わすことにも成功することでしょう。しかし同様に可能なのは、本番になって、彼らがこれらすべてを完全に捨ててしまうことです。そして私自身奇跡としか呼びようのないことが起るのです。つまりひとつの短い休止がいり、それによって彼らは信じられぬほどびたりと合うので

す。この時、あせらずに待たなければなりません。これもまた指揮者が学ばねばならぬことのひとつです。つまり「待つ」ということです。私は本性からして、性急な人たちです。それだから私は「待つ」ということを身につけるため、本当に多くの苦勞をせねばならませんでした。「彼らが来るまで待つということ」。彼らに時をあたえるならば彼らはすばらしい仕方です。そして彼らがやって来るときに、こちらがいらいするなら、破滅が来るだけです。

自分自身を語ること、ことに自分の演奏について語るとは非常にむづかしいものです。それについてはほかの人々がずっとよく語ってくれるでしょう。何故でしょうか？

私が悟性的に(理くつの点からして)やることをほかの人々は言うことができます。ここであなたはテンポを少しゆっくりしすぎた、ここは少しいそぎすぎた、などということはいえます。しかしそれ以上のこと、そしておそらく最も重要なこと、すなわち直観についてはことばで説明することができないのです。他の人々は「今日はすばらしくうまくいった」などと言うことはできます。しかし直観が何であるか、無意識のことについては説明できないのです。そしてウィーン・フィルハーモニーがこの無意識的なものを感じとり、それを音楽のうちに入れこむことのできるオーケストラであること——これこそこの楽団の最も天才的な特性のひとつでありましょう。あなたの心の中に無意識的にわきおこって来る希望を彼らが実現するということこそ特筆すべき特長です。たとえば「ここでもう少し大きいクレッシェンドがほしい」ということを心の中では感じて、身振りでは限度があって示すことができないとき、このオーケストラはそれをやりとげます。それこそこの楽団の最も天才的なことです。

カール・ベーム、レコード別ディスコグラフィ 1

(廃盤をのぞき、現在発売中のもののみを記載しました)

ハイドン
交響曲第88番ト長調
交響曲第89番ヘ長調
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2413 (CG-1095)*
〈録音：1972年9月〉

ハイドン
協奏交響曲変ロ長調
交響曲第90番ハ長調
キュヒュル(Vn)、シャイヴァイン(Vc)、
マイヤー・ホーファー(Ob)、ツェーマン(Fg)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2458
〈録音：1973年5月〉

ハイドン
交響曲第91番変ホ長調
交響曲第92番ト長調
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2484 (3月1日発売予定)
〈録音：1973年9月、1974年4月〉

ハイドン
オラトリオ《四季》(全曲)
ヤノヴィッツ(S)、シュライヤー(T)
タルヴェラ(B)
ウィーン交響楽団
●MG-9191/3 (3枚組) ¥5,000
〈録音：1967年4月〜6月〉

ハイドン
オラトリオ《四季》(抜萃)
ヤノヴィッツ(S)、シュライヤー(T)、
タルヴェラ(B)
ウィーン交響楽団
●MG-2046
〈録音：1967年4月〜6月〉

モーツァルト交響曲全集
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9848/62 (15枚組) ¥25,000
(3378-016/017)
〈録音：1968年2月、10月、66年2月、
59年10月、61年12月、62年3月〉

モーツァルト後期交響曲全集
交響曲第35〜41番(全6曲)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9151/3 (3枚組) ¥5,000
〈録音：1959年10月、66年2月、
61年12月、62年3月〉

モーツァルト
交響曲第1、4、5、6番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2215
〈録音：1968年2月〜3月〉

モーツァルト
交響曲第7番・《新ランパッハ》・
《旧ランパッハ》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2228
〈録音：1968年10月〜11月〉

モーツァルト
交響曲第8、9、10、11番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2234
〈録音：1968年10月〜11月〉

モーツァルト
交響曲第12番、K.75、K.95、K.97
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2242
〈録音：1968年10月〜11月〉

モーツァルト
交響曲第13、14、15番、K.96
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2255
〈録音：1968年10月〜11月〉

モーツァルト
交響曲第16、17、18番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2263
〈録音：1968年2月〜3月〉

モーツァルト
交響曲第19、20番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2270
〈録音：1968年10月〜11月〉

モーツァルト
交響曲第21、22、23、24番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2094
〈録音：1968年2月〉

モーツァルト
交響曲第25、26、27番
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2293
〈録音：1968年2月〜3月〉

モーツァルト
交響曲第28番ハ長調
交響曲第29番イ長調
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2067
〈録音：1968年2月〉

モーツァルト
交響曲第30番ニ長調
交響曲第31番《パリ》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2305
〈録音：1968年2月〜3月〉

モーツァルト
交響曲第33番変ロ長調
交響曲第34番ハ長調
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2318
〈録音：1968年2月〜3月、66年2月〉

モーツァルト
交響曲第35番《ハフナー》、
交響曲第32番
交響曲第38番《ブラーハ》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2021
〈録音：1959年10月〉

モーツァルト
交響曲第36番《リンツ》
交響曲第39番変ホ長調
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2038
〈録音：1966年2月〉

モーツァルト
交響曲第40番ト短調
交響曲第41番《ジュピター》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2007 (CG-6009)
〈録音：1961年12月、62年3月〉

モーツァルト
交響曲第40、41番《ジュピター》
ブラームス
交響曲第1番ハ短調作品68
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9477/8 (2枚組) ¥3,000
〈録音：1961年、62年、63年〉

モーツァルト
協奏交響曲変ホ長調K.297b
協奏交響曲変ホ長調K.364
ブランディス(Vn)、カッポネ(Va)
シュタインス(Ob)、ライスター(CI)他
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2041
〈録音：1964年12月、66年2月〉

モーツァルト
《ハフナー・セレナーデ》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2402 (CG-1087)
〈録音：1970年5月、72年5月〉

モーツァルト
セレナーデ第9番《ポスト・ホルン》
《セレナータ・ノットゥルナ》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2248 (CG-1058)
〈録音：1970年5月〉

モーツァルト
13管楽器のためのセレナーデ
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2313 (CG-1067)
〈録音：1970年5月〉

モーツァルト
2台のピアノのための協奏曲
ピアノ協奏曲第27番変ロ長調
ギレリス(ピアノ)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2460
〈録音：1973年9月、11月〉

モーツァルト
クラリネット協奏曲イ長調
ファゴット協奏曲変ロ長調
ブリント(Cl)、ツェーマン(Fg)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2437
〈録音：1972年9月〉

モーツァルト
フルート協奏曲第1番ト長調
オーボエ協奏曲ハ長調
トリップ(Fl)、トレチュック(Ob)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2485 (3月1日発売予定)
〈録音：1974年4月、5月〉

モーツァルト
歌劇《後宮よりの誘拐》(全曲)
歌劇《劇場支配人》(全曲)
ヤノヴィッツ(S)、マティス(S)、ブライ(B)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)他
ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団
●MG-9744/6 (3枚組) ¥6,600
〈録音：1973年9月〉

モーツァルト
歌劇《フィガロの結婚》(全曲)
ヤノヴィッツ(S)、マティス(S)、ブライ(B)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)他
ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団
●MG-9303/6 (4枚組) ¥7,000
(3371-005)
〈録音：1968年3月〉

モーツァルト
歌劇《フィガロの結婚》(抜萃)
ヤノヴィッツ(S)、ブライ(B)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)
ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団
●MG-2089
〈録音：1968年3月〉

モーツァルト
歌劇《ドン・ジョヴァンニ》(全曲)
ニルソン(S)、シュライヤー(T)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)他
プラハ国立歌劇場管弦楽団
●MG-9171/4 (4枚組) ¥7,000
〈録音：1967年2月、3月〉

モーツァルト
歌劇《ドン・ジョヴァンニ》(抜萃)
ニルソン(S)、アローヨ(S)、シュライヤー(T)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)
プラハ国立歌劇場管弦楽団
●MG-2034
〈録音：1967年2月、3月〉

モーツァルト
歌劇《魔笛》(全曲)
リアー(S)、ウンダーリッヒ(T)、ホッター(B)
フィッシャー＝ディースカウ(Br)他
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9031/3 (3枚組) ¥5,000
(3371-002)
〈録音：1964年6月〉

モーツァルト
歌劇《魔笛》(抜萃)
リアー(S)、ウンダーリッヒ(T)、
フィッシャー＝ディースカウ(Br)、
クラス(B)他
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2018
〈録音：1964年6月〉

モーツァルト
レクイエム
マティス(S)、ハマリ(A)、オフマン(T)、
リッター＝ブッシュ(B)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2299 (CG-1060)
〈録音：1971年4月〉

ベートーヴェン交響曲全集
付：プロメテウスの創造物、コリアン
エグモント序曲
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9801/9 (9枚組) ¥15,000
(3378-018)
〈録音：1970年4月、71年5月、72年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第1番ハ長調作品21
交響曲第8番ハ長調作品93
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2416
〈録音：1972年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第3番《英雄》
コリアン序曲
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2009

カール・ベーム、レコード別ディスコグラフィ2

(廃盤をのぞき、現在発売中のもののみを記載しました)

ベートーヴェン
交響曲第3番《英雄》
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2417
〈録音：1972年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第2番ニ長調作品36
《プロメテウスの創造物》序曲
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2420
〈録音：1972年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第4番変ロ長調作品60
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2424
〈録音：1972年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第5番《運命》
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2226
〈録音：1970年4月〉

ベートーヴェン
交響曲第6番《田園》
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2317 (CG-1066)
〈録音：1971年5月〉

ベートーヴェン
交響曲第7番イ長調作品92
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2080
〈録音：1958年4月〉

ベートーヴェン
交響曲第7番イ長調作品92
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2428
〈録音：1972年9月〉

ベートーヴェン
交響曲第9番《合唱》
コリオラン、エグモント序曲
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9724/5 (2枚組) ¥4,400
(CG6011)
〈録音：1970年4月、72年9月〉

ベートーヴェン
歌劇《フィデリオ》(全曲)
ジョーンズ(S)、キング(T)、
タルヴェラ(B)、アダム(B)他
ドレスデン国立歌劇場管弦楽団
●MG-9527/9 (3枚組) ¥6,000
(3378-011)
〈録音：1969年3月〉

シューベルト
交響曲全集
付：《ロザムンデ》の音楽から
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9825/9 (5枚組) ¥9,000
(3378-021)
〈録音：1971年5月、11月、66年3月〉

シューベルト
交響曲第5番変ロ長調
交響曲第8番《未完成》
交響曲第9番《ザ・グレート》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-9607/8 (2枚組) ¥3,000
〈録音：1966年3月、63年6月〉

シューベルト
交響曲第1番ニ長調
交響曲第2番変ロ長調
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2344
〈録音：1971年5月〉

シューベルト
交響曲第3番ニ長調
交響曲第4番《悲劇的》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2422
〈録音：1971年11月〉

シューベルト
交響曲第5番変ロ長調
交響曲第8番《未完成》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2176 (CG-1075)
〈録音：1966年3月〉

シューベルト
交響曲第6番ハ長調
《ロザムンデ》の音楽から
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2426
〈録音：1971年11月〉

シューベルト
交響曲第8番《未完成》
モーツァルト
交響曲第41番《ジュピター》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2013 (CG-6009)
〈録音：1966年3月、62年3月〉

シューベルト
交響曲第9番《ザ・グレート》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2006 (CG-1030)
〈録音：1963年6月〉

ブラームス
交響曲第1番ハ短調作品68
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2010
〈録音：1963年10月〉

ワーグナー
歌劇《さまよえるオランダ人》
(全曲)
ジョーンズ(S)、スチュアート(Br)
リッターブッシュ(B)他
バイロイト祝祭管弦楽団
●MG-9641/3 (3枚組) ¥6,000
〈録音：1971年7月〉

ワーグナー
楽劇《トリスタンとイゾルデ》
(全曲)
ニルソン(S)、ルートヴィヒ(Ms)
ヴィントガッセン(T)、タルヴェラ(B)他
バイロイト祝祭管弦楽団
●MG-9181/5 (5枚組) ¥8,000
〈録音：1966年7月、8月〉

ワーグナー
楽劇《トリスタンとイゾルデ》
(抜萃)
ニルソン(S)、ルートヴィヒ(Ms)、
ヴィントガッセン(T)、ヴェヒター(Br)
バイロイト祝祭管弦楽団
●MG-2032
〈録音：1966年7月、8月〉

《皇帝円舞曲/J・シュトラウス
名演奏集》
皇帝円舞曲/美しく青きドナウ/南国のぼ
ら/アンネン・ボルカ他全8曲
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2396 (CG-1085)
〈録音：1971年9月、72年9月〉

R・シュトラウス名演奏集
ティル・オイレンシュペーゲルの愉快な
いたづら/ドン・ファン/サロメの踊り
/祝典前奏曲
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2103
〈録音：1963年4月〉

R・シュトラウス
交響詩《ツァラトゥストラはか
く語りき》
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2475
〈録音：1958年4月〉
(1975年2月1日発売)

R・シュトラウス
英雄の生涯・
ツァラトゥストラはかく語りき
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(*ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮)
●MG-9601/2 (2枚組) ¥3,000
〈録音：1958年4月〉

R・シュトラウス
楽劇《サロメ》(全曲)
ジョーンズ(S)、ダン(Ms)、カシリー
(T)、オフマン(T)、
フィッシャー=ディースカウ(Br)
ハンブルク国立歌劇場管弦楽団
●MG-9590/1 (2枚組) ¥4,000
〈録音：1970年11月〉

R・シュトラウス
歌劇《ナクソスのアリアドネ》
(全曲)
ヒレプレヒト(S)、クリスト(S)、
トーマス(T)、
フィッシャー=ディースカウ(Br)他
バイエルン放送交響楽団
●MG-9406/8 (3枚組) ¥6,000
〈録音：1969年9月〉

R・シュトラウス
歌劇《カプリッチョ》(全曲)
ヤノヴィッツ(S)、トロヤノス(Ms)、
シュライヤー(T)、ブライ(Br)、
フィッシャー=ディースカウ(Br)
バイエルン放送交響楽団
●MG-9623/5 (3枚組) ¥6,000
〈録音：1971年4月〉

マラー
亡き子をしのぶ歌
リュッケルトの詩による歌曲
フィッシャー=ディースカウ(Br)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MG-2090
〈録音：1963年4月〉

ベルク
歌劇《ルル》(全曲)
リアー(S)、ジョンソン(Ms)、
グローベ(T)、
フィッシャー=ディースカウ(Br)他
ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団
●MG-9251/3 (3枚組) ¥6,000
〈録音：1968年2月〉

ベートーヴェン
交響曲第5番《運命》
モーツァルト
アイネ・クライネ・ナハトムジーク
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MH-5003 (モノラル) ¥1,300
〈録音データ：不詳〉

R・シュトラウス
交響詩《英雄の生涯》
ドレスデン国立管弦楽団
●MH-5073 (モノラル) ¥1,300
〈録音データ：不詳〉

ベートーヴェン
ミサ・ソレムニス
シュターダー(S)、ラデア(A)、
デルモータ(T)、グラインドル(B)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MH-5019/20 (モノラル) ¥2,600
〈録音データ：不詳〉

ブラームス
交響曲第2番ニ長調作品73
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●MH-5052 (モノラル) ¥1,300
〈録音：1956年12月〉

R・シュトラウス
アルプス交響曲作品64
ドレスデン国立管弦楽団
●MH-5032 (モノラル) ¥1,300
〈録音：1956年12月〉

* ()内はカセットの規格番号です。